

# 共同研究「近世都市江戸町方の研究」 の実施記録

湯 浅 隆

---

## I. 研究の経過

1. 研究会の組織
2. 研究会の内容
3. 研究会の成果

## II. 研究会の記録

1. 研究メンバー
  2. 研究実施期間
  3. 研究会の記録
  4. 研究打ち合せ・史料調査
- 

## I. 研究の経過

### 1. 研究会の組織

国立歴史民俗博物館の共同研究のひとつ、テーマ名『都市における生活空間の史的  
研究』は、歴博の創設とともに始まった。そして館内教官のうちでもこのテー  
マを担うことになったのは、考古学・歴史学という時間軸を重視する研究方法を採る分  
野の者であった。したがって研究の便宜上、その計画作成の当初段階から、時代別に  
小テーマを設定することをほぼ自明のこととして、古代・中世・近世・近現代の4部  
門にわかれて出発した。この時点では、研究の一応の小括をほぼ3年でおこなうとい  
う見通しをたて、それぞれの部門ごとに研究可能な具体的な小テーマの選択をおこな  
った。

この経過からみれば、『都市における生活空間の史的研究』の近世部門における小  
テーマは、問題関心からみても対象とするフィールドからみても近世都市全般のなか  
から、選択することが可能であった。この時点、昭和55年度末～56年度当初は、歴博  
の大きな事業の一つである常設展示の作成準備が本格化しはじめた時期であった。し  
たがって近世史部門の館内教官は、展示準備の傍らに共同研究の事務局をも担当する  
ことになり、当初の共同研究はできるだけ展示に引きつけた小テーマを選択せざるを  
えなかった。常設展示のうち、都市は江戸と長崎をとりあげることが決まっております、

研究史の蓄積・史料調査の便・研究者層などを加味して、共同研究でも江戸を対象にすることにした。

近世都市江戸を研究フィールドとする研究分野は、歴史学をはじめ多岐にわたっている。そこで歴博の共同研究は、これらの諸分野から研究者の参加を依頼することにした。そのときの館側の希望としては、自分の研究対象以外の領域にも関心を示す研究者に参加を願うことであった。研究会の当初メンバーは、館内外の方々の紹介・推薦などにより、文献史学・考古・民俗・建築史・地図・文学などの研究者によって構成された。もっともメンバーは、勤務と研究会の都合などにより、その後出入りはあったが、基本的な構成は変わらなかった。

近世都市江戸研究の具体的な課題は、研究会のメンバーの討議により、つぎのような内容になった。まずフィールドは、江戸のなかでも下町を中心とする町人地に絞こむことになった。また、各人の問題関心と研究基盤である史料への習熟度から、文献を中心にするものとそれ以外（地図類や遺物など）を中心にするものとに分けた。昭和57年度は、この2グループは形式的には別々の研究会を開いていたが、翌年度以降は合同でおこなわれるようになった。

## 2. 研究会の内容

研究会の具体的な目標は、以下のように設定された。

- A. 江戸における都市空間の復原……幕末期の下町部分の町人地を対象とした地図を復原する。地図・建築図・絵画・発掘・現状踏査・文献などを使用する。文献以外の史料を主要な研究手段として操作するグループがおこなう。
- B. 江戸市政と町方の生活の研究……江戸橋広小路を事例研究の核におき、市民生活と市政の諸問題を総合的に検討する。『江戸橋広小路旧記』（旧幕府引継書所収）を基本史料とし、文献史料・文学作品などを分析する。文献史料を主要な研究手段として操作するグループがおこなう。
- C. 江戸と諸国との交流関係史料の収集……諸国人と江戸との交渉を、諸国からみた江戸認識の究明に焦点をあてて、諸資料を収集する。研究会のメンバー全員がおこなう。

以上の3点を共通認識として、5年間に約40回の研究会が実施された。この間の具体的な動きは、次項に記してある。

個々の研究報告および討議のなかで出された問題点は多岐にわたるが、その多くは各人の関心として持続されているはずである。また各人は、都内各地で発掘されつつ

## Ⅱ. 研究会の記録

ある埋蔵遺跡をはじめ、地形上の痕跡や道路付けについて実踏を重ね、さらに江戸以外の各地に残存する江戸関係史料の収集に積極的に赴いた。研究会にさいしては、メンバー以外の専門研究者との交流を意図的にはかかってきた。

### 3. 研究会の成果

研究会の成果のうち、B・Cの目標にそったもののうち、つまり文献史料を中心とした研究の成果の一部は、すでに『国立歴史民俗博物館研究報告』第14集（1987年3月）としてまとめられている。

また、Aの目標を追究したものは、『国立歴史民俗博物館研究報告』の月号に、復原図およびそれに至る考証過程の論考として掲載されている。

なお、メンバーのあるグループは、Bの目標の一環として、『江戸橋広小路旧記』を翻刻し、校注の付与することを意図し準備をすすめてきたが、月号に掲載することができなかった。したがって、館外のメンバーで筆耕の労をとられた熊井保・西川由利子の両氏の御尽力をいまだ生かしえない。このことは、まことに申し訳ない次第であり、次の機会には、公刊できるよう今後も準備をしていきたい。

## Ⅱ. 研究会の記録

### 1. 研究メンバー（研究実施期間をとおして多少の変更があり、以下は最終年度の構成員である）

- 稲田 篤信（富山大学教養部）
- 加藤 貴（早稲田大学大学院在学）
- 亀田 駿一（東京都教育委員会社会教育部文化課）
- 蒲生眞紗雄（東京都立武蔵高等学校）
- 熊井 保（東京都公文書館）
- 小泉 和子（生活史研究所）
- 佐々木達夫（金沢大学文学部）
- 陣内 秀信（法政大学工学部）
- 高田 衛（東京都立大学人文学部）
- 高山 優（東京都港区教育委員会社会教育課）
- 玉井 哲雄（千葉大学工学部）

共同研究「近世都市江戸町方の研究」の実施記録

塚本 学（国立歴史民俗博物館歴史研究部）

中村 静夫（中村地図研究所）

西川由利子（神奈川県立逗葉高等学校）

波多野 純（日本工業大学工学部）

福田アジオ（国立歴史民俗博物館民俗研究部）

南 和 男（東京都立航空工業高等専門学校）

村井 益男（日本大学法学部）

山本 光正（国立歴史民俗博物館歴史研究部）

湯 浅 隆（国立歴史民俗博物館歴史研究部）

吉原健一郎（成城大学文芸学部）

## 2. 研究実施期間

昭和56年度～同 60年度（5年間）

## 3. 研究会の記録

### ■昭和56年度

第1回研究会——昭和56年12月4日（於：歴博）

- ① 歴博共同研究の趣旨と、当研究会のあり方について討議
- ② 研究報告と討議

中村静夫氏「江戸の地図復原について」

第2回研究会——昭和57年1月22日（於：歴博）

- ① 当研究会のあり方について討議
- ② 研究報告と討議

中村静夫氏「幕末期江戸における上納金差出の町について」

加藤貴氏「江戸における捨訴・張訴」

第3回研究会——昭和57年3月26日（於：歴博）

- ① 館蔵資料の検討

「江戸図屏風」

「幕末期江戸諷刺画」

- ② 研究報告と討議

佐々木達夫氏「江戸の考古学」

### ■昭和57年度

第1回研究会（地図を中心に）——昭和57年4月30日（於：東京都公文書館）

① 資料の検討

東京都公文書館蔵「明治六年東京六大区沽券地図」他

② 研究報告と討議

佐々木達夫氏「伊皿子貝塚遺跡」

第2回研究会（文献を中心に）——昭和57年5月7日（於：東京都立大学）

① 史料購読と討議

塚本学氏「『江戸橋広小路旧記 春』 尅」

第3回研究会（地図を中心に）——昭和57年6月11日（於：東京都公文書館）

① 研究報告と討議

財部建志氏「長禄江戸図から安永年間江戸図まで」

② 遺跡発掘現場の見学

佐々木達夫氏案内「旧芝離宮庭園」

第4回研究会（文献を中心に）——昭和57年6月25日（於：東京都立大学）

① 史料購読と討議

吉原健一郎氏「『江戸橋広小路旧記 春』 弐～五」

第5回研究会（地図を中心に）——昭和57年7月30日（於：東京都公文書館）

① 資料の検討と討議

財部建志氏「東京都公文書館蔵の諸江戸図」

② 研究報告と討議

中村静夫氏「幕末期江戸下町の復原図作成について」

第6回研究会（文献を中心に）——昭和57年8月20～21日（於：歴博）

① 史料購読と討議

吉原健一郎氏「『江戸橋広小路旧記 春』 六」

湯浅隆氏「『江戸橋広小路旧記 春』 七～八」

村井益男氏「『江戸橋広小路旧記 春』 九～十」

蒲生眞紗雄氏「『江戸橋広小路旧記 春』 十一」

② 研究報告と討議

中村静夫氏「『御府内沿革図書』案内図の検討」

③ 歴史的町並の見学

玉井哲雄氏案内「佐倉市内旧武家屋敷」

第7回研究会（文献を中心に・地図を中心に）——昭和57年9月23日（於：歴博）

共同研究「近世都市江戸町方の研究」の実施記録

① 史料購読と討議

蒲生眞紗雄氏「『江戸橋広小路旧記 春』十二」

西川由利子氏「『江戸橋広小路旧記 春』十三～十五」

山本光正氏「『江戸橋広小路旧記 春』十六」

② 研究報告と討議

中村静夫氏「幕末期江戸下町の復原図作成の経過報告」

第8回研究会（地図を中心に）——昭和57年11月7日（於：東京都内）

① 江戸下町地の実踏

中村静夫氏案内「旧江戸橋広小路界限・日本橋・本町・大伝馬町・小伝馬町一帯」

第9回研究会（地図を中心に・文献を中心に）——昭和57年12月3日（於：東京都立大学）

① 研究報告と討議

中村静夫氏「幕末期江戸下町の復原図作成の経過報告」

② 史料購読と討議

山本光正氏「『江戸橋広小路旧記 春』十六」

加藤貴氏「『江戸橋広小路旧記 春』十七～十九」

第10回研究会（文献を中心に）——昭和58年1月7日（於：東京都立大学）

① 史料購読と討議

湯浅隆氏「『江戸橋広小路旧記 春』二十～二十二」

② 研究報告と討議

中村静夫氏「八丁堀辺之図について」

第11回研究会（文献を中心に・地図を中心に）——昭和58年3月25日（於：歴博）

① 討議事項

「今年度の総括と次年度の計画について」

■昭和58年度

第1回研究会 昭和58年4月22日——（於：東京都立大学）

① 研究報告と討議

佐々木達夫氏「近世陶磁器の編年について」

波多野純氏「江戸橋広小路復原模型の設計Ⅰ」

第2回研究会 昭和58年5月27日——（於：東京都立大学）

① 研究報告と討議

波多野純氏「江戸橋広小路復原模型の設計Ⅱ」

② 史料購読と討議

湯浅隆氏「『江戸橋広小路旧記 春』二十三」

第3回研究会——昭和58年6月24日——（於：武蔵大学）

① 史料購読と討議

山本光正・（湯浅隆）氏「『江戸橋広小路旧記 春』二十四」

蒲生眞紗雄氏「『江戸橋広小路旧記 春』二十五～二十六」

② 研究報告と討議

吉原健一郎氏「江戸の町割について」

中村静夫氏「江戸下町の橋について」

第4回研究会——昭和58年7月22日（於：歴博）

① 史料購読と討議

蒲生眞紗雄氏「『江戸橋広小路旧記 春』二十七」

加藤貴氏「『江戸橋広小路旧記 春』二十八～二十九」

② 研究報告と討議

玉井哲雄氏「浦賀奉行について」・「江戸図屏風の町家」

中村静夫氏「国会図書館蔵の幕末期江戸の巨大図について」

第5回研究会——昭和58年8月25～28日（於：福井県三国町・石川県金沢市）

① 三国郷土資料館の調査

「所蔵地図類の調査・館内見学」

② 三国町の町家と町並みの実踏

玉井哲雄氏案内「三国町一帯」

③ 研究報告と討議

田中喜男氏「近世都市としての金沢」

島村昇氏「近世金沢の町家」

④ 金沢市立図書館の調査

「所蔵地図類の調査」

⑤ 石川県立図書館、辰巳用水、石川県立郷土資料館などの調査（分担）

⑥ 金沢旧東廓遺構の調査

波多野純氏案内「金沢旧東廓遺構一帯」

第6回研究会——昭和58年9月30日（於：東京都立大学）

① 史料購読と討議

加藤貴氏『江戸橋広小路旧記 春』三十」

② 史料の輪読と討議

『江戸橋広小路旧記 春』三十一～三十二」

③ 研究報告と討議

中村静夫氏「加賀藩江戸藩邸図・江戸名主番組図・八丁堀組屋敷図」

第7回研究会——昭和58年10月28日（於：東京都立大学）

① 史料購読と討議

玉井哲雄氏『江戸橋広小路旧記 春』三十二」

塚本学氏『江戸橋広小路旧記 春』三十三～三十六」

② 研究報告と討議

塚本学氏「江戸の蜜柑について」

稲田篤信氏「石川雅望『問わず語り』について」

第8回研究会——昭和58年12月2日（於：歴博）

① 史料購読と討議

村井益男氏『江戸橋広小路旧記 春』三十七～三十九」

② 研究報告と討議

高山優氏「旧芝離宮・済海寺の発掘調査」

③ 館蔵展示模型の検討

波多野純氏案内「江戸橋広小路模型」

第9回研究会——昭和59年1月27日（於：東京都立大学）

① 史料購読と討議

西川由利子氏『江戸橋広小路旧記 春』四十～四十三」

南和男氏『江戸橋広小路旧記 春』四十四～四十五」

② 研究報告と討議

波多野純氏「通一丁目の底下について」

第10回研究会——昭和59年3月9日（於：東京都港区立港郷土資料館）

① 研究報告と討議

亀田駿一氏「東京における江戸時代遺跡の概要」

松本健氏「済海寺遺跡の発掘調査」

加藤征氏「済海寺長岡藩主牧野家の人骨」

高山優氏「旧芝離宮庭園の発掘調査」

② 展覧会の見学



亀田駿一氏案内「東京の遺跡展」

■昭和59年度

第1回研究会——昭和59年4月27日（於：歴博）

① 史料購読と討議

湯浅隆氏『江戸橋広小路旧記 春』四十六～四十七」

加藤貴氏『江戸橋広小路旧記 春』四十八」

第2回研究会——昭和59年5月25日（於：東京都立大学）

① 研究報告と討議

山本光正氏「木更津河岸について」

第3回研究会——昭和59年6月22日（於：東京都立大学）

① 研究報告と討議

加藤貴氏「江戸町鑑について」

② 史料購読

稲田篤信・山本光正氏「狂歌江戸名所図会（部分）」

第4回研究会——昭和59年7月27日（於：東京都立大学）

① 研究報告と討議

蒲生眞紗雄氏「南北江戸町奉行所所在の沿革について」

第5回研究会——昭和59年9月28日（於：東京都立大学）

① 研究報告と討議

中村静夫氏「平野屋版江戸切絵図について」

佐々木達夫氏「江戸へ流通した陶器とその背景」

玉井哲雄氏「江戸の町割について」

波多野純氏「仙台・芭蕉の辻」

第6回研究会——昭和59年10月26日（於：歴博）

① 研究報告と討議

佐々木達夫氏「江戸に流通した陶磁器とその背景」

中村静夫氏「平野屋版江戸切絵図，名主番組図について」

② 遺跡発掘現場・出土遺物の見学

春成秀樹・白石太一郎氏案内「旧佐倉城址遺跡」

第7回研究会——昭和59年11月30日（於：東京都立大学）

① 研究報告と討議

稲田篤信氏「狂歌江戸砂子集・都の手ぶり」

共同研究「近世都市江戸町方の研究」の実施記録

小泉和子氏「まなばしについて」

亀田駿一氏「江戸時代墓址の古貨幣について」

第8回研究会——昭和59年12月21日（於：日本大学法学部）

① 研究報告と討議

熊井保氏「江戸の牛持」

第9回研究会——昭和60年1月25日（於：港区立みなと図書館他）

① 遺跡発掘現場・出土遺物の見学と討議

「（港区）芝公園一丁目遺跡」

「（新宿区）自証院墓址跡遺跡」

第10回研究会——昭和60年3月22日（於：歴博）

① 研究報告と討議

加藤貴氏「中川番所について」

■昭和60年度

第1回研究会——昭和60年4月19日（於：東京都立大学）

① 研究報告と討議

塚本学氏「近世葬制メモ」

福田アジオ氏「高田富士と落合の火葬場」

小泉和子氏「葬列の変遷」

熊井保氏「明治初期墓地関係史料」

第2回研究会——昭和60年5月17日（於：東京大学構内）

① 遺跡発掘現場・出土遺物の見学と討議

東京大学遺跡調査室諸氏案内「加賀藩邸梅の御殿跡・大聖寺藩邸跡・鷹匠小屋跡」

第3回研究会——昭和60年6月14日（於：歴博）

① 研究報告と討議

時枝俊枝氏「(16ミリ映画) 絵図に偲ぶ江戸のくらし」・「(同) 建造物との対話」・「(同) 坂」

中村静夫氏「明治初年東京第一大区の白地図について」

第4回研究会——昭和60年7月19日（於：東京都立大学）

① 討議と情報交換

「各研究分野における江戸にかんする研究史のありかたについて」

第5回研究会——昭和60年12月6日（於：歴博）

① 討議と情報交換

「研究成果の取りまとめについて」

4. 研究打ち合せ・史料調査

研究打ち合せとは、研究会の形式をとらずに何人かが集まって討議を行なったものをさすが、その開催状況の報告は省略する。

史料調査のうち、構成員の総意に基づいて実施したものは、「3. 研究会の記録」に研究会として記載した。また個人のレベルで実施したことは、多くの回数にわたるため、その実施状況の報告は省略する。なお昭和58年9月10日には、歴博共同研究「近・現代における都市生活の変化に関する研究」の実踏調査に同行し、水上から東京中心部の現行水路を、近世都市構造との関連で検討をした。これには、都合のつくメンバーだけが個人として参加した。

(本館 歴史研究部)